

新理事長

インタビュー



協同組合日本タイヤリサイクル協会（JSRA）は、5月20日に開催した第24回通常総会において、新理事長に伊藤嘉靖氏（傑イトウ）を選出した。伊藤新理事長に抱負や課題への対応を尋ねた（一部、個別の案件については中野栄次顧問が回答）。

―昨年度の事業環境と新タイヤ使用は順調だった年度の具体的方針は  
が、廃タイヤの発生がそれ前年度は、利用先での廃を上回り、中間処理後の力

―ト品やチップ品の荷余り感が出た。原因として中国の経済停滞による中古タイヤの輸出減、更生タイヤが一巡して廃タイヤに回って来たことが考えられる。また、石炭価格の下落に円高が相まって、一部の利用先から価格見直しの要請が出ている。

―今年度は中計の3年目、具体的成果や施策について  
私が組織担当の副理事長だった14年4月に中期計画を策定した。事務局に対して、JSRAの将来あるべき組織像を提案してほしいと言ったのが

「今年度は中計の3年目、具体的成果や施策について」  
合九州タイヤリサイクル協会の交流会を過去に2回開催した。同会は九州・沖縄で17社が加盟し、うち中間処理業の許可を持つのが10社。③

「今年度は中計の3年目、具体的成果や施策について」  
M Aにデータ作成を依頼して、「適正処理」を守り、廃タイヤは石炭比しなければならぬ。そのため、適正なコストがあるかを訴え、目

「今年度は中計の3年目、具体的成果や施策について」  
「適正処理」だ。それと別問題について（中野栄次顧問より）  
一般廃棄物としての廃タイヤで、「販売店がお客様から処理費を徴収していないから、中古タイヤとして買い取り業者に売る行為は、決して容認しない」というJATMAの統一見解を周知徹底する。一廃たと契約書がないので、販売店さんが処分業者にいくらで渡しているのかお客さんにわからないという現状がある。今後は、他の法令の面からJATMAさんと連携を取りながら、販売店さんへ理解を求めて行きたい。

「今年度は中計の3年目、具体的成果や施策について」  
利用先の製紙会社は石炭を基本的に使い、廃タイヤは代替燃料である。昨年、石炭価格が大幅に下がり、さらに円高も相まって、廃タイヤのコスト面でのメリットが落ちてきた。すでに一部の製紙会社から廃タイヤ調達価格の値下げ要請が出ている。他の会社も追随すると思われる。

「今年度は中計の3年目、具体的成果や施策について」  
これまで、利用先に対して値下げをしたことは一度もない。この要求に対応するためには、販売会社さんや販売店さんから回収する廃タイヤ処理料金の値戻しをお願いすることになる。そうしないと、我々中間処理業者の経営が立ちいかなくなる。場合によっては消費者の皆さんにもお願いしていかねばならないだろう。

適正処理には適正価格が必要

―新年度は、新規利用先を開拓するなどして、需要と供給のバランスを保てるよう努力する。価格見直しについては、適正処理するには適正な価格が必要なことから、廃タイヤの処理費用見直しが求められると思う。

―新年度は、新規利用先を開拓するなどして、需要と供給のバランスを保てるよう努力する。価格見直しについては、適正処理するには適正な価格が必要なことから、廃タイヤの処理費用見直しが求められると思う。

―新年度は、新規利用先を開拓するなどして、需要と供給のバランスを保てるよう努力する。価格見直しについては、適正処理するには適正な価格が必要なことから、廃タイヤの処理費用見直しが求められると思う。

―新年度は、新規利用先を開拓するなどして、需要と供給のバランスを保てるよう努力する。価格見直しについては、適正処理するには適正な価格が必要なことから、廃タイヤの処理費用見直しが求められると思う。

―新年度は、新規利用先を開拓するなどして、需要と供給のバランスを保てるよう努力する。価格見直しについては、適正処理するには適正な価格が必要なことから、廃タイヤの処理費用見直しが求められると思う。

―新年度は、新規利用先を開拓するなどして、需要と供給のバランスを保てるよう努力する。価格見直しについては、適正処理するには適正な価格が必要なことから、廃タイヤの処理費用見直しが求められると思う。

―新年度は、新規利用先を開拓するなどして、需要と供給のバランスを保てるよう努力する。価格見直しについては、適正処理するには適正な価格が必要なことから、廃タイヤの処理費用見直しが求められると思う。

伊藤 嘉靖 理事長

州協力会理事長会社の向  
タイヤチップセンターの  
入会で、会員数が28社に  
なり、名実ともに北海道  
から九州まで会員がいる  
全国組織となった。④J  
ATMA環境部との連携  
強化。⑤環境省とのコン  
タクト強化。環境省の認  
知。同時に、処理業者が適正  
な処理を行うためには、  
「適正処理」に対する強い  
志を持つことが必要に  
なる。会員会社は、適正  
処理に対する「強い志」  
を持った処理業者である  
と、強く主張したい。  
―廃タイヤの有価物選  
別問題について  
（中野栄次顧問より）  
一般廃棄物としての廃  
タイヤで、「販売店がお  
客様から処理費を徴収し  
ていないから、中古タイヤ  
として買い取り業者に売  
る行為は、決して容認し  
ない」というJATMAの  
統一見解を周知徹底す  
る。一廃たと契約書がない  
ので、販売店さんが処  
分業者にいくらで渡して  
いるのかお客さんにわか  
らないという現状があ  
る。今後は、他の法令の  
面からJATMAさんと  
連携を取りながら、販売  
店さんへ理解を求めて行  
きたい。  
利用先の製紙会社は石  
炭を基本的に使い、廃タ  
イヤは代替燃料である。